

# にんじん

## 1 作型

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作 型	夏まき秋冬どり											
	冬まき春夏どり(トンネル)											
	春まき夏秋どり (平坦地・中間地)											
	(高冷地)											

:播種      :収穫期      -----:べたがけ      ◡ :トンネル設置      ◡ :トンネル除去

### アピールポイント

- ・出荷時期: 6月中旬～3月下旬。
- ・トンネルなどを利用することで、ほぼ周年で出荷することができます。
- ・にんじんには抗酸化作用があるカロチノイドが豊富に含まれています。
- ・市川三郷町大塚地区特産の「大塚にんじん」は、濃い赤で独特の風味と味で栄養も豊富です(大塚にんじんの出荷時期は11月～12月)。



## 2 各作型のポイント

### (1) 夏まき秋冬どり栽培

播種適期は7月下旬～8月上旬です。早すぎると変形などの障害や黒葉枯病などの病害が多くなり、遅すぎると根の肥大、着色が不十分となります。

1回目の間引きは本葉2～3枚の頃に、2回目の間引きは本葉5～6枚の頃に行います。間引きと同時に追肥・土寄せをします。

防寒のために土寄せしておけば、翌年の3月まで圃場で越冬できます。

### 間引き

### (2) 冬まき春夏どり(トンネル)栽培(平坦地)

播種から生育初期が低温期となるので、平坦地での栽培を基本とします。

株間15cmの穴あきフィルムでマルチングし、1ヵ所3～4粒まきします。発芽を促進するために、不織布のべたがけをし、3月に気温が上昇してきたら除去します。

播種後、トンネルを張ります。ビニールの両サイドは土で埋めて密閉します。3月中下旬頃に、トンネル内の温度が35℃を超えるようになったら(目安は、外の最高気温13～14℃)換気を始めます。4月中～下旬に平均気温が13～15℃になったら、トンネルを除去します。

間引きは1回とし、本葉3～5枚の頃に、1穴で1本にします。

収穫が遅れるとシミ症状などの病害が発生しやすいので、適期収穫を心がけます。

### (3) 春まき夏秋どり栽培(平坦地・中間地 / 高冷地)

生育初期の低温でとう立ちする場合がありますので、晩抽性の品種を選びます。

播種後、気温が上がってくるまで、べたがけ被覆します。

生育後半の気温が高く、病害や裂根などの障害が発生しやすいので、適期収穫を心がけます。

